

● みなとづくり

1 クルーズ観光の拡大による地域経済の活性化

問合せ先 港湾課

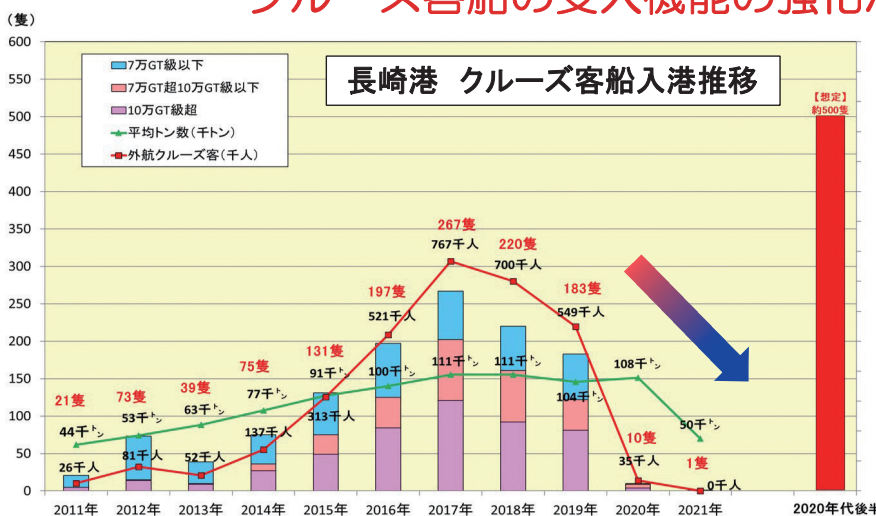
長崎港では、近年、観光産業への経済波及効果が期待できる大型クルーズ客船の入港が急増しています。令和2年度より松が枝岸壁の2バース化が新規事業化されたことから、円滑な事業環境を整えるため、関係者との調整を加速させるとともに、埠頭背後のまちづくりと連携を強化し、早期完成を目指します。

● 長崎港へのクルーズ船の寄港

新型コロナウイルスの感染拡大により一時クルーズ船の受入を中止していましたが、2021年4月より国内クルーズの受入を再開し、同年11月に約1年9か月ぶりとなるクルーズ船が寄港しました。

アフターコロナを見据えたクルーズ船社への入港見込みヒアリングにおいては、「長崎港は主要な寄港地であり、これまでどおり長崎港に寄港したい。」との考えを示されており、多数のクルーズ船での賑わい創出が期待されます。

クルーズ客船の受入機能の強化が求められる

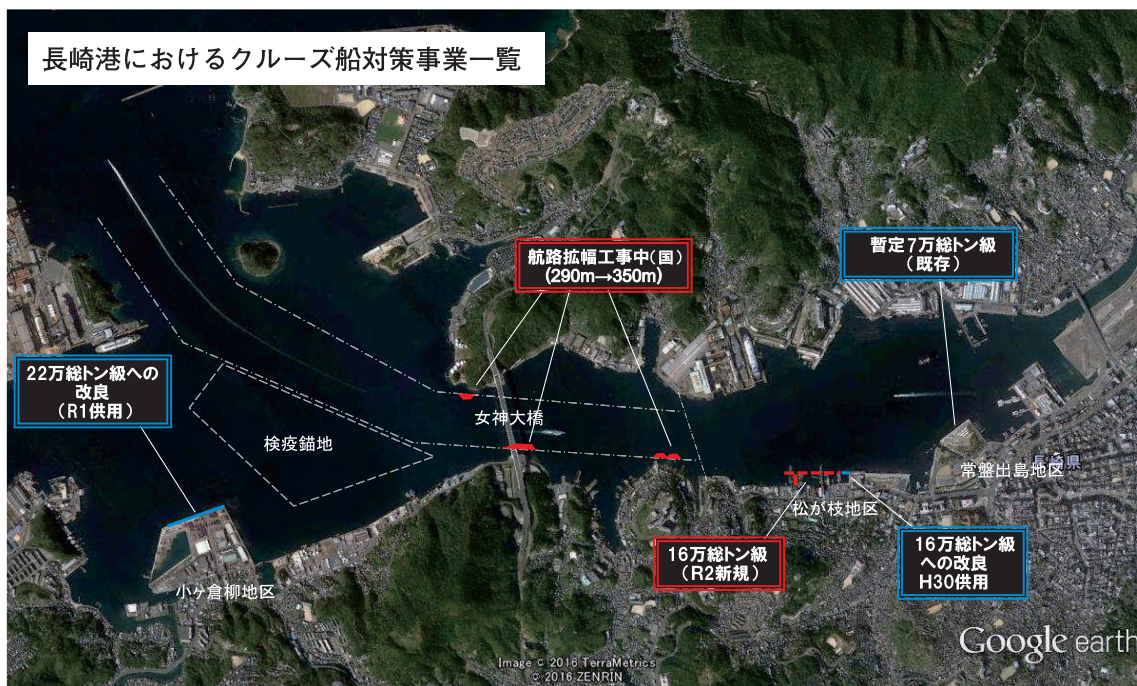


2021年11月6日 飛鳥II 50,444総トン (新型コロナウイルス感染拡大後、初入港)



● クルーズ船の受入環境の強化

① クルーズ船の大型化に対応するため、港湾施設機能の充実を図っています。

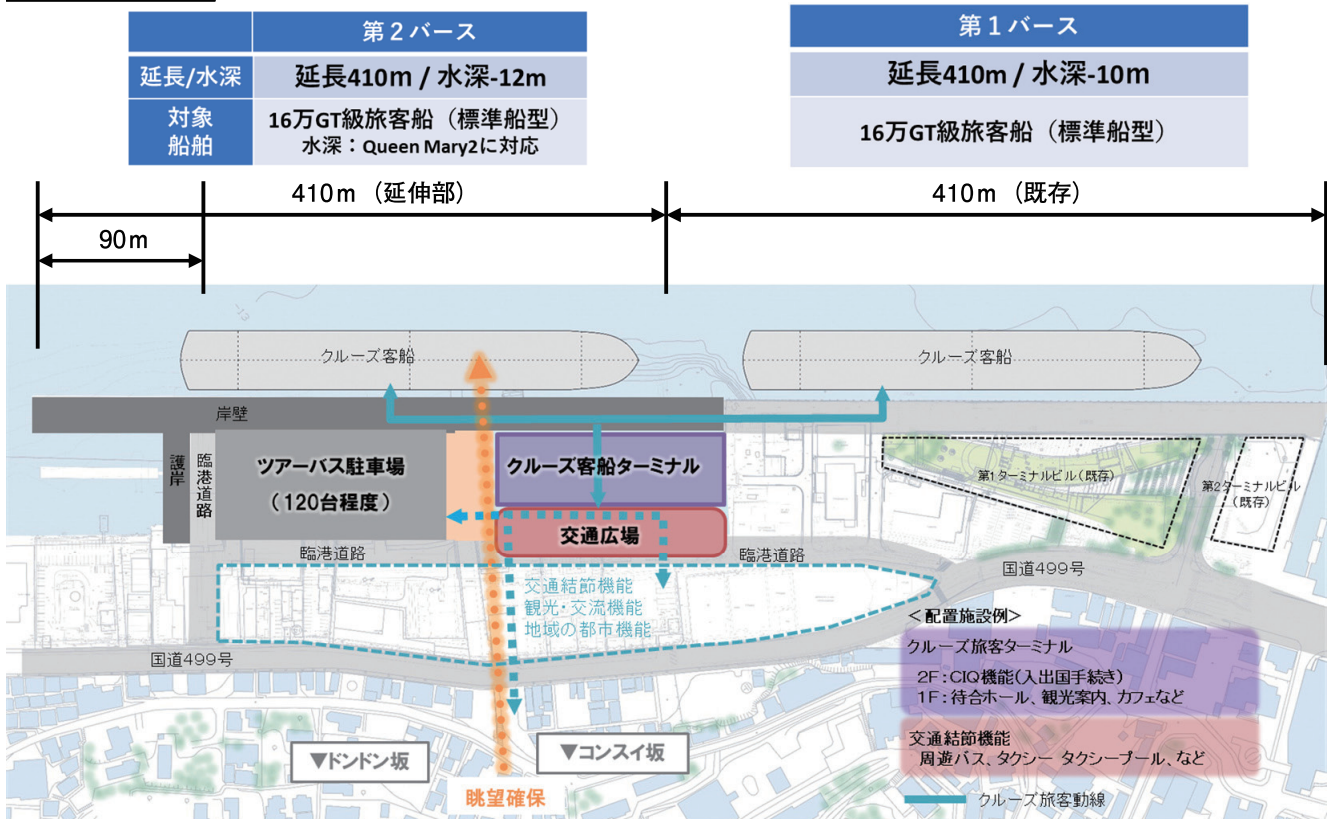


② 令和2年度に「長崎港松が枝地区旅客船ターミナル整備事業」が新規事業化され、背後地のまちづくり構想と一体となり検討を進めています。

近年のクルーズ需要の増加、およびクルーズ船の大型化に対応するため、岸壁を410m延伸し、旅客ターミナル等を整備することで、更なるクルーズ船の受入を目指します。

あわせて、背後のまちなみと調和した都市空間の形成、交通結節機能等を検討し、“みなとまちづくり”と“まちづくり”を一体的に進めます。

機能配置計画図



クルーズ船お見送り（松が枝岸壁）



寄港地観光（平和公園）



2 離島・半島等の暮らしを支える地域交通の確保

問合せ先 港湾課

離島と本土等を結ぶ定期航路の安定的な海上運輸活動を支え、安全・効率的で利便性が高いみなと整備を進めます。

〇ノ津港の定期船埠頭整備及び地域交流拠点の形成



老朽化した施設を更新し、効率的で安定した輸送手段を確保するとともに、南島原地域の交流の拠点を形成する。

厳原港の埠頭再編(旅客埠頭の整備)

